

■刑事・東郷 薫^{とうごうかおる}の背景

あなたが御船^{みふね}千里^{せんり}と出会ったのは、千里がまだ中学生の頃だった。

当時、あなたは連続殺人事件を追っていた。しかし捜査の甲斐^{かい}もなく犯人の手掛かりは得られず、被害者ばかりが増えていく。

あなたが千里と出会ったのは、そんなときだった。偶然にも千里の特異な能力を知ったのだ。

残留^{サイコメトリー}思念^{イメージ}を読む力。空間に残った様々な思念を読み取る能力だ。特に千里の力は、死と破壊に関わる思念を読むという、殺人事件を解決するには打ってつけの能力だった。

中学生を殺人事件に巻き込む、という負^おい目^めはもちろんあった。しかしそれ以上に、さらなる犠牲者が出るのを防ぎたかった。

あなたは千里に協力^{あお}を仰ぎ、事件は解決した。

それ以来、千里は探偵の道^{こころざ}を志したようで、あなたは千里と協力していくつもの事件を解決してきた。

それでも、あなたの中の負い目はなくなっていない。特殊な力を持つ優秀な探偵とは言え、千里はまだ高校生。子供なのだ。

だからあなたは、何があっても千里のことを守ると決めている。自分がこの血生臭い世界に千里を引き込んだ以上、それが刑事としての、大人としての最低限の努めだと考えているからだ。

■当日の行動

《15：00》

たいたんとう

泰端島にクルーザーが到着。泰端島を全員で散策する。

泰端島にはツアー参加者とオーナーの7人しかいないそうだ。

《16：00》

コテージでオーナーからトレジャーツアーの説明を受ける。

1カ月前、茨城県の某所ぼうしょで周防泰山すおうたいざんの手紙が見つかり、そこには新たなタイタンの遺産の手掛かりが記されていた。しかしオーナーは手紙を見てもピンと来ず、特に遺産を独り占めたいとも思わなかった。そこで、識者しきしゃを募って宝探しをすることにしたのだという。

その宝探しというのが、このトレジャーツアーという訳だ。

手紙には「夜明けの直前、目を凝こらせ」と書かれていたそうだ。

《17：00》

オーナーから契約書を渡される。もし誰かがタイタンの遺産を発見した場合、その儲けは全員で均等に分割するという契約書だ。

トレジャーハンターの持田もちだが強く反対したが、結局、最終的には全員が契約書にサインした。

もし契約を結ばなければ、遺産を見つけたところで、発見者のモノにはならないと言われたからだ。誰が遺産を見つけようとも、この島の持ち主はオーナーなので、その権利はオーナーにある（そもそもオーナーは力士だった頃、縁起担えんぎかつぎのつもりで巨人伝説があるこの島を買い取ったらしい）。

《18：00》

リビングで夕食を食べる。オーナー特製のちゃんこ鍋だ。

《19：00》

交代でお風呂。シャワーしかない狭いお風呂だ。

あなたは最後から2番目（オーナーの1つ前）にお風呂に入った。

《21：00》

明日は早いので、オーナーに挨拶して各自個室に戻る。すぐに寝ようと思ったが、携帯をリビングに忘れたことに気付き部屋を出る。

リビングで雑誌記者・三根^{みね}に出くわし、質問攻めにあう。まるで取材のように、警察の捜査方法について根掘り^{ねほ}葉掘り^{はほ}聞かれる（実際、雑誌のネタにするつもりらしい）。仕方ないので、最近一般的になった紫外線^{ブラック}ライトを使った現場検証や、直腸^{ちよくちよう}温度を用いた死亡時刻の推定方法について話す。

《21：30》

三根との会話を終え、自室に戻り就寝。

《23：00》

目が覚める。寝付けないので、水を飲みにリビングに向かう。

そこで民俗学者・柳^{やなぎ}と会う。寝付けないと言うと、どう勘違いしたのか、やっぱり興奮して寝付けないですね、と柳のテンションが上がってしまう。

その後、柳から1時間ほど民俗学のあれこれについて聞かされたが、興味がなかったので内容はよく覚えていない。

《24：00》

柳と別れ、自室に戻り就寝。4時までぐっすり眠る。

《04：00》

起床してリビングに向かう。すぐに参加者全員が集まったが、オーナーは呼んでも部屋から出てこなかった。

《04：30》

もうすぐ夜明け。オーナーはたぶん寝ているのだろうと諦めて（昨晚、オーナー自身が朝は弱くて起きられないかもと言っていた）、コテージを出る。